

日本学術会議中国・四国地区会議主催学術講演会「農学的視点からの地方創
生・活性化への挑戦」の開催について

1. 主 催：日本学術会議中国・四国地区会議、岡山大学
2. 共 催：農業とその関連分野に係る産学官連携推進協議会（農林水産省中国
四国農政局、岡山県、JA 岡山中央会）、NPO 法人中国四国農林水産・
食品先進技術研究会
3. 日 時：平成 28 年 10 月 8 日（土）13:00～17:10
4. 場 所：岡山大学創立 50 周年記念館 金光ホール
（岡山市北区津島中 1-1-1）
5. 開催趣旨：
地方創生が我が国の大きな課題の一つとなっているが、その重要性・意義と
ともに、先進的取組や先進事例について、特に青年・学生・高校生等に紹介し、
将来の担い手としての成長を期すシンポジウムを開催する。
6. 次 第：
司会 白石 友紀（日本学術会議連携会員、岡山県農林水産総合センター
生物科学研究所所長）
 - (1) 開会挨拶
13:00 山本 洋子（日本学術会議連携会員、岡山大学副学長）
 - (2) 日本学術会議副会長挨拶
13:05～13:15 花木 啓祐（日本学術会議副会長・第三部会員、東京大
学大学院工学系研究科教授）
 - (3) 特別講演
13:15～14:00 あべ俊子（衆議院議員、元農林水産副大臣）
「地方創生における農林水産業活性化の意義」
 - (4) 講演
14:00～14:30 田井奈津美（岡山県新見市農林振興課主任）
「地域おこし協力隊『ピオーネ女子』の活躍」
14:30～15:00 中村昌孝（岡山県赤磐市産業振興部政策監）

中野龍平（岡山大学農学部准教授）

「赤磐市における地方創生について～ 地域の魅力向上
と一体感の醸成 ～」

（休憩） 15:00～15:20

15:20～15:50 石井洋平（NPO 法人かさおか島づくり海社（笠岡市）事
務局長）

「笠岡諸島に魅せられて」

15:50～16:20 河崎弥生（岡山県農林水産総合センター森林研究所副所
長）

「岡山県における森林活用と地域創生への挑戦」

16:20～17:00 眞山滋志（吉備国際大学学長）

「農食資源が支える持続的地域の創成」

(5) 閉会挨拶

17:00～17:10 吉田裕一（岡山大学農学部山陽圏フィールド科学センタ
ー長）

日本学術会議近畿地区会議主催学術講演会「アフリカの進化と文化 ― われわれがアフリカから学ぶこと」の開催について

1. 主 催：日本学術会議近畿地区会議、京都大学

2. 後 援：公益財団法人日本学術協力財団（予定）

3. 日 時：平成 28 年 10 月 15 日（土）13:00～17:00

4. 場 所：京都大学国際科学イノベーション棟 シンポジウムホール
（京都市左京区）

5. 開催趣旨：

アフリカは日本からは遠く離れているが、学問的に極めて刺激的な所である。人類発祥の地であるばかりでなく、現在も様々な民族が、あるいは伝統的な様式で、あるいは極めて近代的な様式で日々の生活を営んでいる。この多様性は、文化のみならず、自然界、生物界においても同様である。その広大な大地には、砂漠や熱帯雨林だけでなく、サバンナや湖沼地帯が広がり、多様な生物界が展開している。今回の講演会では、自然と文化の両面からアフリカの多様性とすばらしさ、そして、その学問的研究の奥深さを 4 人の専門家にお話しいただき、貴重な知見を市民の方々とも共有したいと考える。

6. 次 第：

全体司会 伊藤 公雄（日本学術会議第一部会員、京都大学大学院文学研究科教授）

(1) 開会挨拶

梶 茂樹（日本学術会議第一部会員・近畿地区会議代表幹事、京都産業大学共通教育推進機構客員教授）

(2) 日本学術会議会長挨拶

大西 隆（日本学術会議会長・第三部会員、豊橋技術科学大学学長、東京大学名誉教授）

(3) 趣旨説明

梶 茂樹（日本学術会議第一部会員・近畿地区会議代表幹事、京都産業大学共通教育推進機構客員教授）

(4) 講演

- ・「ゴリラから学んだ人類の進化」

山極 壽一（日本学術会議第二部会員、京都大学総長）

- ・「アフリカ大地溝帯の巨大湖に暮らす魚たち：社会進化のモデル生物」

幸田 正典（大阪市立大学大学院理学研究科教授）

- ・「20 世紀アフリカ文学の伝統」

宮本 正興（大阪外国語大学名誉教授・中部大学名誉教授）

- ・「『伝統衣装』のいまーケニア牧畜民のビーズ装飾を事例に」

中村 香子（京都大学アフリカ地域研究資料センター研究員）

(5) 全体討論

司会 梶 茂樹（日本学術会議第一部会員・近畿地区会議代表幹事、京都産業大学共通教育推進機構客員教授）

(6) 閉会挨拶

伊藤 公雄（日本学術会議第一部会員、京都大学大学院文学研究科教授）

「平成 28 年度女子中高生夏の学校 2016～科学・技術・人との出会い～」の開
催について

1. 主 催：日本学術会議科学者委員会男女共同参画分科会
2. 共 催：独立行政法人国立女性教育会館、お茶の水女子大学、
沖縄科学技術大学院大学
3. 後 援：男女共同参画学協会連絡会、埼玉県教育委員会
4. 日 程：平成 28 年 8 月 6 日（土）～8 月 8 日（月）
5. 場 所：独立行政法人国立女性教育会館
6. 分科会の開催：なし

7. 開催趣旨：

女子中高生が「科学技術にふれる」、科学技術の世界で生き生きと活躍する女性たちと「つながる」、科学技術に関心のある仲間や先輩とともに「将来を考える」ための機会として開催する。

このプログラムは、2泊3日の合宿研修を通じて、女子中高生と科学研究者・技術者、大学生・大学院生等が少人数を単位に親密に交流し、理系進路選択の魅力を伝えるものである。理系の分野も様々であり、すでに理系の道を進んでいる女子中高生も、これから夢を追い求める人も、不安を抱える人も、より深くより広く自分たちの視野を広げる機会を提供する。

また、女子中高生の進路選択について、身近な支援者である保護者や教員向けのプログラムもそれぞれ設定しており、子どもの将来像が描けるよう、よきアドバイスやサポートができるように理系進路選択についての理解を深めることを目指す。

8. 次 第：

<第 1 日 8 月 6 日（土）>

13:00～13:30 開校式

開会宣言

横倉 隆和（沖縄科学技術大学院大学神経結合の形成と制御研究
ユニットグループリーダー）

あいさつ

内海 房子（国立女性教育会館理事長）

井野瀬 久美恵*（日本学術会議第一部会員・副会長、甲南大学文
学部教授）※VTR 予定

オリエンテーション

古澤 亜紀（茨城県立水戸農業高等学校教諭）

13:30～14:00 サイエンスアンバサダー「自分の将来について考えよう」

14:15～15:45 キャリア講演

五十嵐 悠紀（明治大学総合数理学部専任講師）

西原 亜里沙（首都大学東京博士課程後期2年）

16:00～17:30 学生企画「Cross Road」

16:00～17:30 夏の学校を知る

19:15～20:45 学生企画「サイエンスバトル!？」

19:15～20:45 サイエンスカフェⅠ「日本学術会議、学会、大学、企業等の研
究者・技術者との座談会」

河野 銀子（日本学術会議連携会員、山形大学地域教育文化学
部教授）

男女共同参画学協会連絡会、大学、企業等から数名

21:00～22:00 天体観望会

21:00～22:00 国際交流「英語相談所」

21:00～22:00 研究者・技術者やT A（Teaching Assistant）へのキャリア・
進学懇談会

<第2日 8月7日（日）>

9:00～11:30 サイエンスアドベンチャーⅠ「ミニ科学者になろう」

9:00～11:30 実験・実習の参加・見学

13:00～15:50 サイエンスアドベンチャーⅡ「研究者・技術者と話そう」

13:00～14:00 講演Ⅰ「企業における女性研究者・技術者の活躍」（仮題）

渡辺美代子（日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人科学
技術振興機構執行役）

14:00～15:00 講演Ⅱ「社会からみる女性研究者・技術者の活躍と今後の期待」
（仮題）

松尾由賀利*（日本学術会議第三部会員、法政大学理工学部教
授）

15:00～15:50 サイエンスカフェⅡ「ポスター展示・キャリア相談見学」

16:00～17:30 学生企画「Gate Way」
16:00～17:30 サイエンスカフェⅢ-A「研究者・技術者、大学生、新社会人との座談会」
16:00～17:30 サイエンスカフェⅢ-B「中学、高校、大学の教員の連携」
19:15～20:45 学生企画「キャリア・プランニング」
19:15～20:45 サイエンスカフェⅣ「海外理工系事情」
21:00～22:00 国際交流「もっと話そう英語」
21:00～22:00 研究者・技術者やT Aへのキャリア・進学懇談会

<第3日 8月8日(月)>

9:00～11:00 キャリア・プランニングポスター発表会
9:00～10:00 夏の学校を振り返る
10:00～11:00 キャリア・プランニングポスター発表会見学
11:15～11:45 学生企画「夏学振り返りと表彰式」
11:45～12:15 サイエンスアンバサダー任命式・閉校式
横倉 隆和(沖縄科学技術大学院大学神経結合の形成と制御研究ユニットグループリーダー)

(*印の登壇者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「18 歳・19 歳有権者は選択する 後編・彼らはいかに選択したか」の開催について

1. 主 催：日本学術会議政治学委員会政治過程分科会、文科省科研費 JESV、
明治大学特定課題研究ユニット政治制度研究センター、慶応義塾大
学創造クラスター「多言語検索型社会データアーカイブの創造と利
用」

2. 共 催：なし

3. 後 援：なし

4. 日 時：平成 28 年 12 月 10 日（土）14 時 00 分～17 時 00 分

5. 場 所：明治大学駿河台キャンパス・リバティタワー1 階 1013 教室
（リバティホール）

6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

18 歳・19 歳有権者がはじめて投票した参院選が終わった。それに先だっ
て、当分科会などの主催で、公開シンポジウム「18 歳・19 歳有権者は選択す
る 前編・彼らはいかに選択するか」を行った。そこでは、18 歳・19 歳有権
者の政治意識を分析する一方、実際に 18 歳・19 歳の若者の声をラウンドテー
ブル方式で聞くことができた。今回申請するシンポジウムはその「後編」とし
て、彼ら新有権者が実際にどのような投票行動をとったか、それに向けて学校
現場あるいは選挙管理委員会ではどのような対策を講じたかを報告してもら
い、はじめて 18 歳選挙権が執行された歴史的選挙を多方面から総括しておき
たい。

8. 次 第：

報告者と報告タイトル：

小林 良彰*（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学法学部教授）

「参院選にみる若年有権者の投票行動」

名取 良太*（日本学術会議連携会員、関西大学総合情報学部教授）

「大学生の政治意識アンケート結果報告」

高橋 朝子（都立戸山高等学校教諭）

「主権者教育に関連した高等学校での取組み」

田宮 抄子（東京都選挙管理委員会事務局）

「東京都の取組みについて（仮）」

討論者：石上 泰州*（日本学術会議連携会員・平成国際大学法学部教授）

小野 耕二*（日本学術会議連携会員、名古屋大学名誉教授）

河野 武司*（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学法学部教授）

司会者：西川 伸一*（日本学術会議第一部会員、明治大学政治経済学部教授）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（*印の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「薬学分野の参照基準と4年制薬学教育に求められる
人材育成」の開催について

1. 主 催：日本学術会議薬学委員会薬学教育分科会
2. 共 催：日本薬学会
3. 日 時：平成28年9月28日（水）13：30～16：30
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 分科会の開催：なし
6. 開催趣旨：薬学分野参照基準の説明と討論、特に4年制薬学教育プログラムの具体的な参照基準と人材育成について意見交換を行う。
7. 次 第：
13：30 挨拶
 太田 茂*（日本学術会議連携会員、広島大学薬学部教授）
13：35 挨拶
 長野 哲雄*（日本学術会議第二部会員、東京大学名誉教授、東京
 創薬機構客員教授）
13：40 大学教育における分野別質保障と参照基準
 広田 照幸*（日本学術会議連携会員、日本大学文理学部教育学科
 教授）
14：10 薬学分野の参照基準概要
 奥 直人*（日本学術会議連携会員、静岡県立大学薬学部教授）
14：40 薬学（4年制）が身に付ける基本的素養（取りまとめの経緯）
 赤池 昭紀*（日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院創薬科学
 研究科教授）
14：55 薬学（4年制）が身に付ける基本的素養（概要）
 川崎 郁勇（武庫川女子大学薬学部教授）
15：20 （休憩）
15：30 「4年制薬学教育の将来像」
 細谷健一（富山大学薬学部教授、薬学部長）
15：45 「4年制薬学教育の将来像」
 杉林堅次（城西大学薬学部教授）

16：00 総合討論

(司会) 橋田 充* (日本学術会議連携会員、京都大学薬学研究科教授) (予定)

望月 真弓 * (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学薬学部教授)
(予定)

16：30 閉会

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「専門・認定薬剤師制度の現状と課題」の開催について

1. 主 催：日本学術会議薬学委員会 チーム医療における薬剤師の職能とキャリアパス分科会
2. 共 催：日本薬学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成 28 年 10 月 26 日（水）13:00～17:00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：第 22 期に発出した提言「薬剤師の職能将来像と社会貢献」（平成 26 年 1 月）において、Pharmacist-scientist の養成、専門薬剤師育成の必要性、卒後教育・初期研修の整備、生涯教育制度の確立などが問題提起された。これを受けて本シンポジウムでは、医学における専門医制度をレファレンスにしながら、専門・認定薬剤師制度の現状と課題について協議し、今後のあるべき姿を考究する。

8. 次 第：

13:00 開会挨拶

平井みどり*（日本学術会議第二部会員、神戸大学医学部附属病院教授・薬剤部長）

太田 茂*（日本学術会議連携会員、広島大学大学院医歯薬保健学研究院教授）

第 1 部 座長：入江徹美*（日本学術会議連携会員、熊本大学大学院生命科学研究部教授）

望月眞弓*（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学薬学部教授）

13:10 薬学教育の視点から見た生涯教育の課題

佐々木昌弘（文部科学省高等教育局医学教育課企画官）

13:35 「患者のための薬局ビジョン」から導かれる薬剤師の将来像について

森 和彦（厚生労働省大臣官房審議官（医薬担当））

14:00 専門医制度改革と日本専門医機構の設立（仮題）

池田康夫*（日本学術会議連携会員、早稲田大学理工学術院先進

理工学研究科生命医科学専攻教授)

14:50－15:00 (休憩)

第2部 座長：乾 賢一* (日本学術会議連携会員、京都薬科大学名誉教授)
矢野育子* (日本学術会議連携会員、神戸大学医学部附属病院
准教授・副薬剤部長)

15:00 薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダードと生涯学習支援
システム

山本信夫 (日本薬剤師会会長)

15:15 日本病院薬剤師会の生涯研修事業と専門・認定薬剤師制度 (仮題)
木平健治 (日本病院薬剤師会会長)

15:30 日本医療薬学会の専門・認定薬剤師制度と今後の展望
佐々木均 (長崎大学病院教授・薬剤部長)

15:45 薬剤師研修センターの各種認定制度と今後の展望
豊島 聡 (日本薬剤師研修センター代表理事、武蔵野大学薬
学部教授)

16:00 薬剤師認定制度認証機構の事業と今後の展望
吉田武美 (薬剤師認定制度認証機構代表理事)

16:15 総合討論

座長：平井みどり

安原真人* (日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学大学院
医歯学総合研究科教授)

16:55 閉会挨拶

安原真人* (日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学大学院
医歯学総合研究科教授)

17:00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「肉用牛生産における国際化の対応と地域の活動」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料委員会畜産学分科会、肉用牛研究会、
日本畜産学アカデミー、佐賀県（予定）
2. 日 時：平成28年9月15日（水） 13:30～16:30
3. 場 所：佐賀県立男女共同参画センター・佐賀県立生涯学習センター（ア
バンセホール）
4. 分科会の開催：なし

5. 開催趣旨

我が国の肉用牛生産は、TPP を巡る状況のもとで、飼料や子牛価格の高騰、輸入肉の増加や、国策としての和牛肉輸出の促進という、めまぐるしい状態下にある。さらに海外では、オーストラリアや欧米、アジアで和牛の血統を入れた外国産 Wagyu の生産が始まり、最近、急拡大し始め、今後の国際競争は予断を許さないものがある。これら国内外の牛肉生産状況は、我が国の肉牛生産者のみならず、流通業界、食品業界、地域産業や観光産業さらには消費者にも広く大きな影響を及ぼすものでもある。

そこで本シンポジウムでは、我が国の肉牛生産を国内だけでなく国際的視野をもって考えるため、TPP 対策としての我が国の肉用牛生産の課題や、Wagyu を含む和牛を巡る国内外の情勢と課題を示し、さらには地域の実践活動例として、佐賀牛の振興（輸出）ならびに畜産農家に対する飼養管理技術の向上支援活動について紹介し、今後の技術開発や方向性を考え、畜産学や畜産業の新たな展開に資することを目的とする。

6. 次 第

座長：眞鍋 昇*（日本学術会議連携会員、大阪国際大学教授・学長補佐、東
京大学名誉教授）

開会挨拶：矢野 秀雄*（日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授）

来賓挨拶：古賀 俊光（佐賀県農林水産部部長）

基調講演：

「TPP と日本の肉用牛生産の課題」

福田 晋（九州大学大学院農学研究院農業資源経済学部門農業資源
経済学講座教授）

一般講演：

「和牛をめぐる国内外の情勢と課題」

入江 正和（近畿大学生物理工学部食品安全工学科教授）

事例紹介：

「佐賀牛の振興（輸出）について」

内田 武巳（佐賀県農業協同組合畜産酪農部長）

「畜産農家に対する飼養管理技術向上支援活動について」

早田 文博（佐賀県農業技術防除センター専門技術員）

閉会挨拶：渡邊 誠喜（日本畜産学アカデミー会長）

7. 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の登壇者は主催分科会委員）

公開シンポジウム「気候変動に打ち克つ育種戦略」の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会育種学分科会

2. 共 催：日本育種学会

3. 後 援：(検討中)

4. 日 時：平成28年11月11日(金) 13:30～17:00

5. 場 所：日本学術会議講堂

6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

世界の気温は21世紀末までに、平均気温で2.4～6.4℃上昇すると予想されている。温暖化に伴い頻発する大雨・干ばつなどの気候変動は、農作物生産や家畜生産に大きな影響を及ぼす。気候変動に対する対策を行わなければ、予測される被害額はGDPの20%以上になると試算されている。気候変動に打ち克つための育種とはどのようなものであるのか？本シンポジウムでは、気候変動に打ち克つための戦略的育種技術と国際連携について検討する。

8. 次 第：

13:30 はじめに

倉田 のり* (日本学術会議第二部会員、国立研究開発法人農業・
食品産業技術総合研究機構理事)

13:35 気候変動の現状と将来予測

木本 昌秀 (東京大学大気海洋研究所副所長・教授)

14:00 気候変動が国内の農林水産業に及ぼす影響

酒井 英光 (国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農
業環境変動研究センター主任研究員)

14:25 機構変動への適応のためのイネ育種

安東 郁男 (国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構次
世代作物開発研究センター農研機構ゲノム育種研究総
括監)

14：50－15：05 （ 休憩 ）

15：05 気候変動への適応のためのムギ類育種

辻本 壽*（日本学術会議連携会員、鳥取大学乾燥地研究センター
教授）

15：30 気候変動と乳牛育種

萩谷 功一（帯広畜産大学畜産生命科学研究部門准教授）

15：55 途上国における乾燥耐性品種の開発

浦尾 剛（国立研究開発法人国際農林水産業研究センター生物資
源・利用領域長）

16：20 総括および総合討論

（司 会）奥野 員敏*（日本学術会議連携会員、元筑波大学生
命環境系教授）

（パネリスト）講演者全員

17：00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「ICT の将来展望と人材育成（仮）」の開催について

1. 主 催：日本学術会議電気電子工学委員会通信・電子システム分科会
2. 後 援：一般社団法人電子情報通信学会、一般社団法人情報処理学会、日本データベース学会、IEEE Japan Council その他（予定）
3. 日 時：平成 28 年 10 月 3 日（月）13：30～17：00
4. 場 所：日本学術会議講堂 外 2 室
5. 分科会の開催：開催予定
6. 開催趣旨：“ICT の将来展望を見据えた上での、電気電子工学系学科における人材育成のあり方”を目的に、以下の点に注目して議論する。
 - (1)現状・今後の ICT で活躍が期待される人材に身に付けてほしい技量についてと、大学での教育の現状が要望に即しているか。
 - (2)国際化進展の現状と日本の問題点、
 - (3)世間における ICT(特に電気・通信)についての認識と Pre university での教育状況。
 - (4)以上を受けて、基盤となる電気・通信の専門教育 の重要性と現状の改善策等。
7. 次 第：
13：30 挨拶
津田 俊隆*（日本学術会議連携会員、早稲田大学大学院国際情報通信研究科教授）
13：40 世界の I C T の将来方向と日本の課題 （仮）
関口 和一 （株式会社日本経済新聞社編集委員）
14：20 通信事業者が目指す今後の方向 （仮）
篠原 弘道 （日本電信電話株式会社副社長）
15：00 日本社会における I C T に対する認識と I C T 若年教育（仮）
原島 博 （東京大学名誉教授）
15：40－16：00 （ 休憩 ）

16 : 00 総合討論

(司会)

吉田 進* (日本学術会議第三部会員、京都大学工学部電気電子工学科特
任教授・名誉教授)

(パネリスト)

関口 和一 (株式会社日本経済新聞編集委員)

篠原 弘道 (日本電信電話株式会社副社長)

原島 博 (東京大学名誉教授)

森 正弥 (楽天技術研究所代表、楽天株式会社執行役員)

仙石 正和* (日本学術会議連携会員、事業創造大学院大学学長・教
授)

(その他 未定)

17 : 00 閉会

中野 美由紀* (日本学術会議連携会員、産業技術大学院大学教授)

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の登壇者は、主催分科会委員)

「サイエンスアゴラ 2016」の開催について

1. 主 催： 国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）、日本学会会議
2. 共 催： 国立研究開発法人産業技術総合研究所、東京都立産業技術研究センター、日本学生支援機構、国際研究交流大学村、東京臨海副都心グループ
3. 後 援： 内閣府、外務省、文部科学省（申請予定）、独立行政法人国立科学博物館、独立行政法人日本学術振興会、国立研究開発法人理化学研究所、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、国立研究開発法人海洋研究開発機構、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構、大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台、一般社団法人東京臨海副都心まちづくり協議会、一般社団法人日本経済団体連合会、公益財団法人日本科学技術振興財団・科学技術館、東京都教育委員会、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会、千葉県教育委員会、全国中学校理科教育研究会、全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会、日本科学技術ジャーナリスト会議、一般社団法人日本サイエンスコミュニケーション協会、公益社団法人応用物理学会、公益社団法人日本化学会
4. 日 時：平成 28 年 11 月 3 日（木）～11 月 6 日（日）
5. 場 所：日本科学未来館
6. 委員会等の開催：開催予定あり
7. 開催趣旨：
研究者・専門家と社会の様々で多様なステークホルダー（市民、メディア、産業界、行政・政治）との対話の場、科学技術と社会の関係性についてのあらゆる「科学コミュニケーション」を深化させる場、科学コミュニケーションを通して、本当に社会に役立つ知恵を作り出すことに講演する場を提供すること

を目的とする。

なお、日本学術会議は、科学と社会委員会科学力増進分科会及び科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会と防災減災・災害復興に関する学術連携委員会が以下のシンポジウムを実施することにより、共催の機関とともにサイエンスアゴラの主催の一員となるが、サイエンスアゴラ全体の主催は国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が担う。

8. 次 第：

（1）高校理科教育のありかたについて

開催日時：平成28年11月5日（土）14：00～15：30

開催場所：日本科学未来館7階 会議室3

定 員：50名程度

<概 要>

日本学術会議が2月に公表した提言、また6月4日に東京大学で行った公開シンポジウムの内容をもとに、その提言を具体的に実現させるための方法を議論する。

<プログラム>

14：00～14：05 開会挨拶

須藤 靖*（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院理学系
研究科物理学専攻教授）

14：05～14：15 高校現場における理科教育の現状と課題（仮）

宮嶋 敏（埼玉県立熊谷高校教員）

14：15～14：25 大学初年次における科学力と高大接続（仮）

真貝 寿明（大阪工業大学情報科学部情報システム学科教授）

14：25～14：35 現代社会を生き抜くために必要な科学（仮）

青野 由利（毎日新聞論説委員）

14：35～14：45 文科系にとっての科学の意味（仮）

戸田山 和久*（日本学術会議第一部会員、名古屋大学大学院
情報科学研究科教授）

14：45～15：25 ディスカッション

15：25～15：30 閉会挨拶

柴田 徳思*（日本学術会議連携会員、日本アイソトープ協会）

専務理事)

(*印の講演者等は、科学と社会委員会科学力増進分科会委員)

(2) 感染症へのチャレンジ

開催日時：平成 28 年 11 月 5 日 (土) 10:30~12:00

開催場所：日本科学未来館 7 階 未来館ホール

定 員：200~300 名 (キーノートセッション)

＜概 要＞

エボラ出血熱、MERS、ジカ熱などの感染症、さらに、より大きな脅威となりうる薬剤耐性菌 (抗生物質の効かない病原菌) に関する最新の知見と取り組みなどを考える。

＜プログラム＞

10:30~10:35 開会挨拶

澁澤 栄* (日本学術会議第二部会員、東京農工大学大学院農学研究院教授)

10:35~10:50 感染症基礎研究の進展と防御における取り組み (仮)

甲斐 知恵子 (日本学術会議第二部会員、東京大学医科学研究所感染症国際研究センター教授)

10:50~11:05 レギュラトリーサイエンスとしての感染症報道 (仮)

小田 光康 (明治大学情報コミュニケーション学部専任准教授、明治大学感染症情報分析センターIDIA センター長)

11:05~11:20 人畜共通感染症の現状と課題 (仮)

水谷 哲也 (東京農工大学大学院農学研究院教授・農学部附属国際家畜感染症防疫研究教育センターセンター長)

11:20~11:55 ディスカッション

11:55~12:00 閉会挨拶

須藤 靖* (日本学術会議第三部会員、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻教授)

(*印の講演者等は、科学と社会委員会科学力増進分科会委員)

(3) 災害とレジリエンスー平成 28 年熊本地震災害の教訓ー

開催日時：平成 28 年 11 月 6 日（日）10:30～12:00

開催場所：日本科学未来館 7 階 未来館ホール

定 員：200～300 名（キーノートセッション）

<概 要>

災害に対するレジリエンスは予測力、予防力、対応力で構成される。予測力を担う理学、予防力を担う都市計画、工学、対応力を担う社会科学のそれぞれの立場から、熊本地震災害の対応を踏まえ、建物や都市の強靱性を確立し、災害の応急対応・復旧・復興を確実・迅速に進めるために、科学・技術、学術が具体的にどのように役立つか、今後なすべき方向性はどこにあるかを、多くのステークホルダーと議論する。

<プログラム>

10:30～10:33 開会挨拶

和田 章*（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授）

10:33～10:47 「予測力」の観点から見た平成 28 年熊本地震：地震動

平田 直（日本学術会議連携会員、東京大学地震研究所教授）

10:47～11:01 「予防力の観点から見た平成 28 年熊本地震：社会基盤

本田 利器（東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）

11:01～11:15 「予防力の観点から見た平成 28 年熊本地震：宅地住宅被害

五十田 博（京都大学生存圏研究所教授）

11:15～11:29 「対応力」の観点から見た平成 28 年熊本地震：応急対策

西村 博則（調整中）（益城町町長）

11:29～11:43 「対応力」の観点から見た平成 28 年熊本地震：生活再建

林 春男*（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長）

11:43～11:57 防災減災・災害復興に関わる学術連携の重要性

米田 雅子*（日本学術会議第三部会員、慶應義塾大学先導研究センター特任教授）

11:57～12:00 閉会挨拶

小池 俊雄*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

（*印の講演者等は、科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会委員または防災減災・災害復興に関する学術連携委員会委員）

公開シンポジウム「第1回防災学術連携シンポジウム」の開催について

1. 主 催： 日本学術会議防災減災・災害復興に関する学術連携委員会、
防災学術連携体

2. 共 催： なし

3. 後 援： なし

4. 日 時： 平成 28 年 8 月 28 日（日）10:00～12:00

5. 場 所： 東京大学本郷キャンパス安田講堂

6. 委員会等の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

災害外力の高まる日本で、自然災害の軽減のために、日本学術会議と連携して、防災に関わる 48 の学会が結集し、平成 28 年 1 月 9 日に「防災学術連携体」（現在 52 学会）を発足した。

本シンポジウムでは、平成 28 年 4 月 14 日に発生した熊本地震における現象、被災状況等を解説するとともに、その取り組みから、防災に関わる先端的研究の一部を、一般市民を対象として分かりやすくビジュアルに紹介する。

また、日本学術会議や各学会の代表が勢揃いして、防災学術連携体の紹介と学会連携で日本の防災力を高めていくことを宣言する。

8. 次 第：

司会 防災学術連携体事務局長 塚田 幸広（土木学会専務理事）

10:00 挨拶

1) 日本学術会議会長

大西 隆*（日本学術会議第三部会員、豊橋技術科学大学学長）

2) 防災学術連携体代表幹事

和田 章*（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授、防災減災・
災害復興に関する学術連携委員会委員長）

10:06 防災学術連携体の概要紹介

米田 雅子*（日本学術会議第三部会員、慶應義塾大学先導研究センター特
任教授、防災学術連携体事務局長）

10:16 熊本地震における学会の取組み

○地震の観測と現象解明 日本地球惑星科学連合、日本地震学会な
ど

○地震による被災状況と対策 日本建築学会、地盤工学会など

○情報提供・避難 日本地震工学会、地域安全学会など

○震災後の対応から復旧・復興 廃棄物資源循環学会、日本計画行政学会

11:40 防災・減災への防災学術連携体参加学会からのメッセージ

上記学会に加え、多数学会などの代表が登壇の予定、日本学術会議の代表、
防災学術連携体代表幹事 廣瀬 典昭（土木学会前会長）

11:57 閉会の言葉

依田 照彦*（日本学術会議第三部会員、早稲田大学理工学術院創造理工学
部教授、防災学術連携体副代表幹事）

12:00 終了

（*印の登壇者は、主催委員会委員）

公開ワークショップ
「『火山災害にどう備えるか』／『東京圏の大地震にどう備えるか』」
の開催について

1. 主 催： 日本学術会議防災減災・災害復興に関する学術連携委員会、
防災学術連携体

2. 共 催： なし

3. 後 援： なし

4. 日 時： 平成 28 年 8 月 28 日（日）12:30～16:30

5. 場 所： 東京大学本郷キャンパス山上会館 2 階大会議室

6. 委員会等の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

防災学術連携体(平成 28 年 1 月に設立された防災に関わる 51 学会の集まり)と日本学術会議 防災減災・災害復興に関する学術連携委員会が共同して、一般市民向けに、わが国の防災力の強化のために、2 つのワークショップ、「火山災害にどう備えるか」、「首都直下地震にどう備えるか」を開催する。火山災害、首都直下地震に関係の深い学会の代表と日本学術会議の専門家が集まり、それらの発生メカニズム、観測、対策、情報提供、避難行動、救助などについて、現時点の研究成果をわかりやすくビジュアルに説明するとともに、今後、わが国と国民はどう備えていけば良いのかを議論する。

8. 次 第：

12:30 ワークショップ「火山災害にどう備えるか」

司会：山本佳世子（日本学術会議連携会員、電気通信大学大学院情報理工学
研究科准教授）

挨拶：依田 照彦*（日本学術会議第三部会員、早稲田大学理工学術院創造理
工学部教授、防災学術連携体副代表幹事）

趣旨説明：井口 正人（日本火山学会会長）

発表（各 9 分）

講演 1 「火山噴火のメカニズムと観測体制」	日本火山学会
講演 2 「日本列島における火山活動の歴史」	日本第四紀学会
講演 3 「火山地質の特徴」	日本地質学会
講演 4 「火山地域の土砂災害対策」	砂防学会
講演 5 「警報伝達と避難対策」	地域安全学会
講演 6 「広域連携による火山防災」	日本計画行政学会
講演 7 「火山とリモートセンシング」	計測自動制御学会
講演 8 「火山災害復旧の無人化施工・調査」	日本ロボット学会
講演 9 「森林の火山災害復旧」	日本森林学会

質疑応答：石川 芳治（日本砂防学会会長）

14：20-14：40 休憩

14：40 ワークショップ「東京圏の大地震にどう備えるか」

挨拶：和田 章*（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授、防災減災・災害復興に関する学術連携委員会委員長）

趣旨説明：加藤 照之（日本地震学会会長）

発表（各 9 分）

講演 1 「首都直下地震のメカニズム」	日本地震学会
講演 2 「関東の活断層とその動き」	日本活断層学会
講演 3 「津波堆積物からの発見」	日本古生物学会
講演 4 「首都圏の地震被害想定」	日本地震工学会
講演 5 「都市・建築の耐震を進めよう」	日本建築学会
講演 6 「原発事故からの教訓」	日本原子力学会
講演 7 「火災対策と避難」	日本火災学会
講演 8 「災害救急と日頃の備え」	日本救急医学会
講演 9 「次の震災からの東京復興」	日本災害復興学会

質疑応答

田村 和夫（日本学術会議連携会員、千葉工業大学工学部建築都市環境学科教授）

16：27 閉会の挨拶

廣瀬 典昭（土木学会会長、防災学術連携体代表幹事）

16：30 終了

（*印の登壇者は、主催委員会委員）

公開シンポジウム

「災害は貧困を加速する：持続可能な開発に向けた減災・防災の貢献」
の開催について

1. 主 催： 日本学術会議科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開
に関する検討委員会
2. 共 催： なし
3. 後 援： なし
4. 日 時： 平成 28 年 8 月 27 日（土）13:00～14:30
5. 場 所： 東京大学本郷キャンパス理学部 1 号館西棟 2 階 206 講義室
6. 委員会等の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

持続可能な開発を考えるためには、頻発する巨大災害や気候変動などの自然災害リスクに加えて、増大する世界人口や社会・経済活動の発展など、急速に変化する世界の諸問題に対する統合的アプローチが必要である。本セッションでは、持続可能な開発目標（SDGs）に関連する貧困と災害の問題を中心として、国際的な動向や問題解決に向けた科学・技術の役割について、各分野の専門家が最新事例を紹介する。総合討論では、持続可能な社会の実現に向けた自然科学系と社会科学系の融合、さらには開発援助機関や NGO などの実務者を含めた社会と学術界の連携のあり方について考えたい。

8. 次 第：

13:00～13:05 開会挨拶

大西 隆*（日本学術会議第三部会員、豊橋技術科学大学学長）

13:05～13:45 先進的取組み事例紹介

「人文・社会系での問題の捉え方、見方」

林 春男*（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長）

「防災大国日本が名実ともに世界をリードする防災支援の潮流とは：
仙台枠組みに反映された日本の主張と、持続的発展の基礎としての防災」

竹谷 公男（独立行政法人国際協力機構（JICA）上席国際協力専門員）

「防災・減災に関する学術界の国内外の動向」

（IRDR、ISDR-S&T、学術会議・連携体、GADRI、仙台での会議について）

塚原 健一*（九州大学大学院工学研究院附属アジア防災研究センター教授）

「DR2AD Model によるパキスタンでのマクロ経済分析事例」

横松 宗太（京都大学防災研究所准教授）

「洪水と貧困の削減に向けた東南アジアでの事例分析と研究開発：

地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）の取り組み」

川崎 昭如*（東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻特任准教授）

13:45～14:30 討論

座長

小池 俊雄*（東京大学大学院工学系研究科教授・水災害・リスクマネジメント国際センター（ICHARM）センター長）

14:30 閉会

（*印の登壇者は、主催委員会委員）

第14回産学官連携功労者表彰（つなげるイノベーション大賞） 授賞式 開催概要（案）

1 目的

産学官連携功労者表彰は大学、公的研究機関、企業等における産学官連携活動において大きな成果を収めた事例に関し、その功績を称えることにより、我が国の産学官連携の更なる進展に寄与することを目的に、平成15年から実施している。

受賞することとなった功労者を称え、優れた産学官連携の事例をより多くの国民に紹介するために授賞式を行う。

2 日時

平成28年8月26日（金）13時30分～16時00分 ※予定

3 場所

東京ビッグサイト レセプションホール

4 主催（予定）

内閣府、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省、日本経済団体連合会、日本学術会議

5 賞の種類

内閣総理大臣賞、科学技術政策担当大臣賞、総務大臣賞、文部科学大臣賞、厚生労働大臣賞、農林水産大臣賞、経済産業大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞、日本経済団体連合会会長賞、日本学術会議会長賞
（以上、11賞）

6 プログラム（予定）

時間	内容
13:30	(1) 開会
13:30-13:35	(2) 主催者代表挨拶
13:35-15:00	(3) 表彰状授与
15:00-15:20	(4) 内閣総理大臣賞受賞者によるプレゼンテーション
15:20	(5) 閉会

15:20-16:00	(6) 全体記念写真撮影等
-------------	---------------

7 関連プログラム

イノベーション・ジャパン2016会場にて、各受賞内容を紹介するパネル展示